

(5) 放射能強度および発熱量等 **(最大値)**

○○○○○○○**出発時**

- -○○○ -○○-(1): ○○ TBq
(2): ○○ TBq
(3): ○○ TBq
(4): ○○ TBq

(参考:○○○○○○○**空港出発時**)

- -○○○ -○○-(1): ○○ TBq
(2): ○○ TBq
(3): ○○ TBq
(4): ○○ TBq

本書でいう最大値は、モリブデン 99 の二日の減衰分を考慮し、発注量に対して+50%以内とする。

(6) 核燃料物質に該当しない。

(7) 容器への収納方法

モリブデン 99 をプラスチック製又はステンレス鋼製の直接容器に充填し、ネジ式キャップで強く締める。この容器をステンレス鋼製の漏洩防止容器に収納し、Viton 製パッキングにグリースを塗布した後、ネジ式キャップを漏洩防止容器の肩の部分に当たるまで締める。その後別添②-1、②-2、③-1 の通り遮蔽容器及び保護容器に収納する。

8. 輸送制限個数

該当しない。

9. 輸送物の輸送指数(○○○○○**出発時**)

- -○○○ -○○-(1): ○○
(2): ○○
(3): ○○
(4): ○○

10. 輸送時における取扱い上の注意事項

- (1) 輸送物はフォークリフト等を使用することにより取扱いを行う。
- (2) 作業区域への関係者以外の立ち入りを禁止する。
- (3) フォークリフト等、地上器材の使用時は誘導員を配置する。

コメントの追加 [情報システム1]:

当該輸入に際して、モリブデン 99 の

1日の減衰を考慮して、発注量に対して+50%を上限とした最大値で申請を行い、その範囲内で安全に運用します。

Shipping Notification や危険品申告書で、その範囲内にあることを

点検(チェック)し報告します。

なお、本数量は、製造工場出発時の値であり、参考として、現地空港出発時の値を記載いたします。

11. 輸送予定年月日、区間及び便名

(1) 輸送区間

- 1) 出発空港：○○○○○空港
- 2) 到着空港：東京国際空港
- 3) 経由空港：当該輸送はいずれも経由しない

(2) 輸送年月日

申請番号

○○○-○○○-○○○-○○-①: 令和○○年 ○月 ○○日 ~ ○○月 ○○日 ○○○○/ ○○ ○○
②: ○○日 ~ ○○日 ○○○○/ ○○ ○○
③: ○○日 ~ ○○日 ○○○○/ ○○ ○○
④: ○○日 ~ ○○日 ○○○○/ ○○ ○○

12. 通達記 2.(1)イの発送時検査等を受ける場合には、当該検査を希望する場所及び日時

発送時検査の免除を希望するので該当しない。

13. 通達記 2.(1)イの発送時検査等の免除を希望する場合には、通達記 2.(1)イ i)～iv)のいずれに該当するかの

説明

当該放射性物質は、○○○○○○○○○○○○○○○○○○が○○○○○政府から設計製造を承認された○○○○○○○○○○○○○○○○○○の容器を使用し、IAEA 放射性物質安全輸送規則 1996 年版に基づく放射性輸送物とされることにより、通達記 2.(1)イ iv)による国土交通大臣が適当と認める外国の法令に基づき放射性輸送物とされるものとして、発送時検査等の免除を希望いたします。

なお、放射性同位元素等の規制に関する法律第 18 条第 2 項の運搬物確認を受けて交付された運搬物確認証 (別添④-1) 及び出荷時に放射性輸送物として確認された○○○○○○○○○○○○○○○○○○の確認書 (別添⑤-1)は別途提出いたします。

14. その他の特記事項

- (1) ○○○○○○○/B(U)-○○ ○○○○○輸送容器の取扱い指示書に基づき各種検査と保守を実施している。
- (2) 本輸送容器については、○○○○○○○○○○○○○○○○(○○○○○○○○○○)で ISO9001 を取得している。
- (3) 航空追加三要件は発送前検査により確認し別途報告いたします。
 - 1) 95kPa の圧力差のもとで放射性物質の漏洩がないことをリーク検査により確認する。
 - 2) 摂氏 38℃の温度で、輸送中に人が容易に近づくことが出来る表面の温度が日陰において摂氏 50℃を超えないことを表面温度により確認する。
 - 3) 摂氏零下 40℃から摂氏 55℃までの温度において容器の密閉性が損なわれないことを、耐熱温度－40℃～330℃の O リングを使用することにより確認する。